

7月号 2025年7月21日発行 No.266

運営通信

この「運営通信」は、総代の皆さんに毎月の生協の事業や活動、経営に関する情報をお伝えするためにお届けしています。

第5期総代を募集しています

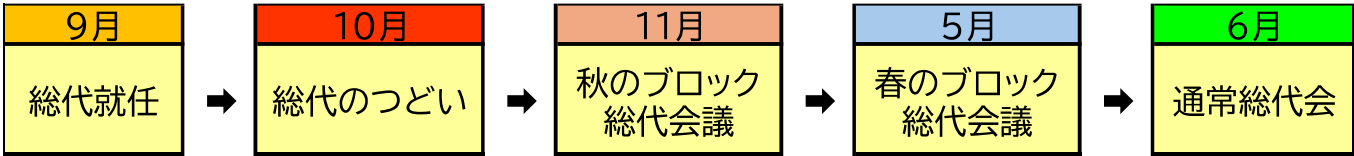
第5期総代を7月14日(月)から8月22日(金)までの期間で募集しています。県内全域から、様々な世代のバランスのとれた総代選出を目指しております。総代は再任可能です。配送スタッフまたは事務局よりお声を掛けさせていただいた際は、再度お引き受けいただければ幸いです。



※立候補の資格・・・2025年7月14日現在で、とやま生協の組合員(本人)であること。(ご家族は総代になれません)

第5期の総代スケジュールは以下の通りです。

【総代任期 1年の流れ】



【第5期総代 内容と会議日程(予定)】

	総代のつどい	秋のブロック 総代会議	春のブロック 総代会議	通常総代会
内容	・ 総代の役割について ・ ブロックの組合員活動報告 ・ 総代限定企画	・ 上期(4～9月)まとめと下期(10～3月)方針について	・ 各ブロックの前年度まとめと次年度方針について ・ 総代会議案の事前説明	・ 年度のまとめ、次年度の方針決定など重要事項の採決
東部ブロック	10/7(火)	11/10(月)	2026/5/11(月)	2026/6/17(水) を予定しております
西部ブロック	10/8(水)	11/11(火)	2026/5/12(火)	
富山ブロック	10/10(金)	11/13(木)	2026/5/13(水)	

とやま生協の事業や活動、取り組みが組合員の思いや願いを取り入れたものになるよう、地域や自分たちの声を持ち寄って話し合いましょう。引き続き、生協運営へのご協力をお願いします。

【目次】

1、第5期総代を募集しています	表紙
2、2025年度「食の学習会」を開催します	P 2
3、食の安心研究所 第20回通常総会&食の安心交流会 開催報告	P 2
4、理事会だより、経営実績報告	P 3
5、重点課題で取り組んだこと	P 3
6、2030環境・サステナビリティ政策 2024年度取り組み報告(抜粋)	P 4
7、5回目のボランティアバスを運行しました	P 4

とやま生活協同組合
<https://www.toyama.coop/>
富山市金屋555
フリーダイヤル
☎: 0120-555-192
発行: 経営企画G



2025年度「食の学習会」を開催します

日本の食料自給率は38%で、多くの食品を海外からの輸入に頼っていることは皆さんもご存じだと思います。輸入している食品の種類も年々増加しており、その安全性について不安に感じている組合員(消費者)も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

輸入食品の安全性は？ その情報は正しい？ など尽きない疑問に対して、情報を読み解く力、正しく理解する力をつけるため皆さんで学習しませんか。

学習会テーマ「輸入食品は安全なの？」～安全性確保の仕組みを知る～

日時：8月26日(火)10:00～11:30

会場：とやま生協金屋本部 2階会議室
(富山市金屋555)

厚生労働省より輸入食品の安全対策専門職員が講師を務めます。
(講師の都合により、オンラインによる学習会になる可能性もあります。)

右の二次元コードからお申込みできます。(申し込み締め切り:8/15(金))



食の安心研究所 第20回通常総会&食の安心交流会 開催報告

6月9日(月)、食の安心研究所 第20回通常総会が開催されました。会員235名に対し195名(書面出席168名を含む)の出席により、①2024年度活動報告と決算承認の件、②2025年度活動計画と予算承認の件について審議の結果、賛成多数により全て可決されました。

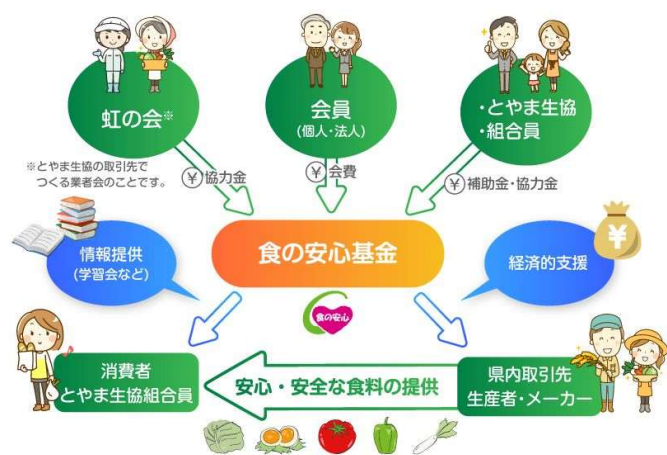


「食の安心研究所」とは？

組合員へお届けする商品を生産、製造しているお取引先へ品質向上と安全確保のための支援を行っていきたいと考え、「富山県における地産地消の促進と地場のお取引先の育成を目的とした制度」として2006年6月に「食の安心基金」を立ち上げました。

この制度は「安全なものを安心して食べたい」と願う消費者である組合員と、「安全なものをつくり続けたい」と願う生産者にお役立ちするためのもので、同時にこの制度を運用する機関として「食の安心研究所」を設立しました。

(とやま生協に「食の安心研究所」として事務局を置き、基金の運用を行っています。)



総会終了後に開催された交流会では、2024年度に食の安心基金をご利用いただいた2社の法人会員より、基金の活用や品質管理に関する取り組みを報告いただき、その後の試食会で自社製品に対する思いを直接お聞きしました。



株式会社 明惣さん(総菜製造、高岡市)



E&Tファームさん(サツマイモ等栽培、砺波市)(左)



自社商品への思いを伺いながら試食

理事会だより

開催日：第1回 2025年6月18日(水)、第2回 2025年6月25日(水)

◇話し合われたこと

第1回理事会

(承認事項)

1. 2025年理事会諮問委員会と対外役員等の担当役員補充の件
2. 役員報酬額決定の件
3. 制度廃止に伴う役員退職慰労金支給の件

第2回理事会

(承認事項)

1. 2025年度5月度の事業・活動および経営報告の件
2. 2025年度第1四半期まとめと第2四半期方針の件
3. 総代選挙管理委員選出の件
4. 夏季賞与支給の件
5. 執行役員制度規程改訂の件

(確認事項)

1. 第4回通常総代会開催報告の件
2. 対外総会開催報告の件
3. 2025年度労働条件改定の件

◇5月度 事業・経営報告

(全体経営報告)

- ・総事業高は13億9,978万円で、予算比 99.4%、予算差－812万円です。
- ・経常剰余金は1,276万円で、予算差＋180万円の実績です。

(機関運営、組合員活動報告等)

- ・春のブロック総代会議を開催、参加総代数は389名（実参加126名、書面263名）で、ブロック2024年度まとめと2025年度方針が承認されました。また総代会提案議案を説明し、分散会を開催しました。
- ・5/29(木)にくらしの助け合いの会「にこりーな」の総会が開催され、全議案承認されました。
- ・関連会社の総会は、5/22(木)にとやませいきょうサービス、5/29(木)にとやま레인ボーファームが開催され、全議案可決承認されました。
- ・復興支援ボランティア登録者によるボランティア活動（4回目）を5月24(土)に氷見市で行いました。組合員5名、職員4名の計9名が参加しました。
- ・組合員活動参加は、ブロック協議会・委員会に141名が参加、32地域会で197名、せいきょうクラブ8回で44名の参加がありました。主な活動では、稲作体験プロジェクト（田植え体験）に48名の参加がありました。

重点課題で取り組んだこと

◆組合員の参加・参画

コープでわくわく企画「冷凍王子の時短レッスン」を開催しました

6/28(土)、テレビでもおなじみの冷凍王子こと西川 剛史さんをお招きし、クイズを交えて冷凍野菜の解凍や加熱方法など、おいしく食べるコツを教えていただいたり、冷凍王子おすすめのコープの冷凍野菜を使ったアレンジ調理を実演していただきました。

会場参加：30名

オンライン参加：41名



コープと冷凍王子が共同で開発したレシピ本のプレゼント(抽選)もありました。



会場：とやま生協 富山センター2階会議室&調理室



実演調理を目の前で見てもらいました

とやま生協HPで
当日の様子を詳しく
ご報告しています。➡



◆食の安心・安全、くらしの安心

ユニセフ「ミャンマー地震緊急募金」取り組みの報告

4月～5月に取り組んだ「ミャンマー地震緊急募金」でお預かりした募金を6/30(月)に日本ユニセフ協会へ送金しました。

OCRによる募金			対面による募金	
募金人数 金額	富山	1,480名 1,572,500円	・みなみ店	8,702円
	東部	779名 826,200円	・本部募金箱	1,100円
	西部	1,069名 971,900円	計	9,802円
	計	3,328名 3,370,600円	合計	3,380,402円

総額338万402円の善意が寄せられました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

2030環境・サステナビリティ政策 2024年度取り組み報告(抜粋)

とやま生協では「2030ビジョン」の実現のため、環境や社会的課題に焦点をあてた「2030環境・サステナビリティ政策」を策定し、組合員や地域の皆さんとともに様々な取り組みを進めています。2024年度の取り組みの一部をご紹介します。

◆気候変動対策

太陽光発電設備導入の取り組み

- ・2024年5月に開所した小規模多機能型居宅介護施設「輝かみいいの」に太陽光発電設備を設置し、10月から稼働しました。これで太陽光発電設備を有する事業所は全部で6か所となりました。
- ・年間の太陽光発電量は102万kWh(一般家庭244世帯の年間電気使用量相当)でした。自家消費量は72万kWh(とやま生協の年間電力使用量の12%)で、328tのCO₂排出量削減に貢献しました。

とやま生協は、「持続可能な開発目標(SDGs)」に取り組んでおり、「誰も取り残さない、平和で心豊かな地域社会」を創るため、組合員、職員、地域と協同しながら事業・活動を進めています。「誰一人取り残さない」というSDGsが目指す姿は生協の理念と重なり、また協同組合(生協)はSDGsを実現するための重要なパートナーとして位置づけられています。



◆行政や他団体・地域との連携

地域課題に対応

- ・ショッピングセンター食品館の閉店により、買い物物が不便となった周辺地域の組合員からのご要望にお応えし、2024年4月から射水市新湊地区と高岡市牧野地区で移動店舗「クルくる」による巡回販売を始めました。



移動店舗「クルくる」



輝かみいいの 太陽光発電

その他の2024年度の取り組みをまとめた「Sustainability Report2025」は総代会の議案書郵送時に同封してお送りしております。右の二次元コードからも閲覧できます。



「Sustainability Report2025」

「2030環境・サステナビリティ政策」は2022年の策定から3年が経過し、その間の社会情勢変化に伴い見直し、2025年3月に改訂を行いました。



2030環境・サステナビリティ政策



「10の行動指針」とありたい姿をイメージした「2030年に向けての目標・行動(Action)」

5回目のボランティアバスを運行しました

6月28日(土)、復興支援ボランティア登録をされた組合員10名と職員3名の計13名(女性9名、男性4名)で、氷見市内で災害ボランティア活動を行いました。30～60代の幅広い年齢層メンバーが集まりました。(他団体や個人の方を含めて全体33名参加)

今回の作業内容も公費解体が決まっているお宅の1階の一部と2階の片付けで、家具や家電など大きな物を運び出し、小さな物は分別して袋にまとめました。押し入れやタンスからは思い出の写真などが出てきて、1つ1つ依頼者に確認を取りながら作業を進めました。

2月から開始した氷見での活動は今回で5回目となり、2回目、3回目の参加と言う方も多く、作業は予定より早く進み、午後からは次回以降に行う予定だったお店部分の作業に入りました。お店の作業場は戸棚が倒れたままの状態、床にはコップや皿が大量に散乱していました。ガラスの破片などを丁寧に取り除いて足場を確保し、戸棚や作業台を移動させました。

氷見市ではボランティア要請がまだまだ続いています。公費解体を行う家屋も残り500棟以上あり、目標の11月までに完了するには月80棟のペースでの作業が必要となっています。とやま生協はこれからも被災者の方々に寄り添い、支援活動を続けていきます。



廃棄物をトラックへ運びます



戸棚が倒れたままの店内



他団体や個人の方を含めて全体で33名が参加しました

